**台湾工作機械情報**

**2021年４月15日**

* **初のグローバルオンラインデジタル工作機械展**

**TMTS** **Virtual閲覧数７万超え、国外訪問客は50％を上回る**

台湾国際工作機械デジタル展示会(TMTS Virtual)で国内外メーカーから122の申し込みがあり、100ステージを超えるデジタルバーチャルショールームがサイト上で公開された。2020年11月10日からこれまで閲覧回数はすでに７万回を超えており使用者は計46,418名、本国との海外利用者比率は半々ほどになった。海外利用者の統計は上からインド、トルコ、米国、パキスタン、ブラジルからだった。

Google Analyticsのトラッキング機能を利用することでメーカーに閲覧者の動向をリアルタイムで提供し、メーカーはそれによって顧客ソースを特定、効果的に市場開拓ができる。メーカーは各ショールームにトラッキングコードを仕込むことで訪問者の行動や興味を把握し、コンテンツの調整やページの最適化に役立てることができる。

従来の展示会におけるマーケティングモデルを一新するようなオンラインバーチャル展示会、TMTS Virtualは「家にいながら楽しむ」ことがテーマだ。TMTSが10年以上にわたって収集・構築してきた国内外バイヤーのデータベースをもとに、出展者のオンラインコンテンツを公開し国際的な専門メディアの広告、Googleのキーワード広告、メールマガジン、国際展示会（IMTS、JIMTOF、SIMTOSなど）の協力もあって、デジタルショールームをバイヤーに直接見せることができ、また出展者も国内外からより多くのリソースと商機を得られるようにした。

**TMTS 2022に向けて準備は整えた！**

工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏はこう述べた。「今回のコロナ禍が転機をもたらした。台湾メーカーのスマート転換を促進したのだ。将来的に遠隔操

作、コンピュータネットワークはメイントレンドとなるだろう。TMTS Virtualは台湾工作機械とパーツメーカーに腕試しの絶好チャンスを与えた。オンライン展覧会での多様なプレゼンを通して展示会場のスペース問題も打破し、バーチャルデジタルマーケティング、オンライン商談とクリエイティブな体験の中で新たなニッチを見つけたのだ。」

TMTS Virtualはオンライン展覧会を2021年10月31日まで続ける予定だ。同時に台湾工作工作機械展（TMTS2022）の準備も進めるため、オンライン上で隠れた見込み客を集めている。そうすればTMTS2022に出展する際、最適な出展アイテムをつかむことで、コロナ禍が落ち着いた後の商機を掴み取ることができるはずだ！

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌2021，NO.127 頁54-56）

* **2021工作機械産業の展望　どん底を抜け出し回復**

2021年はグローバルに言って平穏とは言い難い一年となった。もともと米中貿易戦の緩和に期待を寄せ工作機械産業は腕前を披露していくつもりだったが、COVID-19による各国の厳しい国境管理、人と人との接触の減少、国を跨ぐサプライチェーンの断絶などで工作機械の末端市場は加工設備の需要が縮小し製造業に大きな挫折をもたらした。

理事長の許文憲氏はこう指摘する。「工作機械工業会はコロナの発生後真っ先に工作機械マスク国家隊を結成し政府の協力の下、40日で92のマスク生産ラインを構築、７日以内には300の偽装偽造防止ローラーを完成した。業界と政府が手を取り合って順調に国内マスクの生産量を確保し共に国民の健康を守った。大変光栄なことだ。2020年工作機械消費市場トップ10は世界の工作機械消費総額の約76％を占めた。コロナを抑制できた国（例えば台湾）は、他の主な消費市場と比較して輸出衰退幅を小さく抑えることができた。

２年間の米中貿易戦、新型コロナの打撃を受けて工作機械の輸出は大幅に減少し、生産額は下方修正された。今年の展望について、理事長許文憲氏は工作機械産業は「すでにどん底を抜け、市場には明かりが見え始めた」と語った。2021年、年間産業額は15-20％成長できると見込んでいる。しかしながら依然３つの大きな危険に留意しなければならない。それは、物価の価格変動、船積みコンテナの不足、為替の暴走だ。政府に協力を要請して価格変動の安定化とコンテナの確保の問題についても海運業の協力を呼び掛けている。

去年第４シーズン、工作機械工業会は会員メーカーに対し2021年の景気予測調査を実施した。全体的に言って、業者は慎重な見方をもっている。2021年第２、第３シーズンにかけて徐々に回復に向かうと予想される。徐々にコロナ禍が収束しワクチンが普及すれば世界の消費は回復し、パーツは他より比較的早くに回復の一歩を歩き出せるだろう。

卓永財名誉理事長は次のように語った。「工作機械パーツ業者は2020年第４シーズンからさっそくよい成績を見せてきた。台湾だけでなく、中国大陸や欧州市場もそのような見込みがある。輸出に依存している台湾が直面している台湾ドルの高騰状況を考えて我々は教育省に要請をした。学校のカリキュラムを計画する際、台湾の国際化を考慮し、会計学、企業管理、貿易、金融系の各学部で為替リスク管理を必修科目とするようにということだ。国際為替の変動に直面した際、業者自らわずかな利益で身を滅ぼすことのないように臨機応変な対応ができるよになってほしい。」

嚴瑞雄名誉理事長も同様に楽観的な見方を持っている。「今年の台湾工作機械産業は成長に向かう。また落ちてしまうようなことはないだろう。日本産業の見方から言えば、2024-2025年世界の工作機械産業は2018年のように好調に戻るチャンスがある。業者がグレードアップの転換時期を把握できるようにして、高価値化、スマート化に向かって発展し、原料自動ローディングシリーズの標準化を図ると同時に自身の技術能力と人材育成も向上していくように。」と語った。

国際貨幣基金会（IMF）の予測によれば、2020年の中国大陸と台湾はコロナ禍の加速を制御できたので、経済成長率もわずかながら成長と現状を維持できている。また2021年は他国の経済状況も去年より好調となるであろうし、世界のGDPはマイナス4.4％から5.2％まで成長すると予測する。

我が国の工作機械の主な輸出市場は今年世界の経済に高い期待を持ってもよいといえよう。例えば、米国のバーデン大統領の「新経済政策」、中国の「中国標準2035」、ユーロ圏の「ユーロ経済回復基金」などはどれも投資の拡大で国内や各地域の経済成長や消費を刺激し、台湾工作機械とパーツ業者の商機は無限と言ってもいい。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌2021，NO.128 頁68-69）

* **2020年台湾工作機械産業の振り返り**

財政部関税総局資料処理所が提供する我が国各関税区の輸出報告資料による台湾工作機械とパーツ工業同業工業会（TMBA）統計では、2020年1-12月の台湾工作機械輸出総額は21.55億米ドルで、2019年より29.7％減少した。そのうち金属切削工作機械輸出は29.8%減少、金額は17.84億米ドル、金属成型工作機械輸出は29.5％減少、金額は3.71億米ドルだった。これを前一か月と比較すると、2020年12月の工作機械輸出額は2020年11月より8.6%成長した。そのうち金属切削工作機械輸出は9.3％成長、金属成型工作機械は5.5％成長した。

2020年1-12月金属切削工作機械の主な輸出機種は順にマシニングセンタ、輸出金額約7.02億米ドル、2019年同期より31.3％減少、旋盤は第二位、輸出金額は4.46億米ドル、2019年比では28.3％減少した。金属成型工作機械の輸出では鍛圧、プレス成型工作機械輸出金額が約2.94億米ドル、2019年同期より30.9％減少した。

輸出国（地域）別では、2020年1-12月台湾工作機械輸出大国（地域）トップ10は順に、中国（香港含む）、米国、トルコ、ロシア、ベトナム、タイ、インド、日本、オランダ、マレーシアだった。そのうち、台湾中国大陸（香港含む）向け工作機械輸出金額は7.57億米ドルを下回る。2019年と比較して16.2％減少した。輸出全体の比重は35.1％を占める。輸出第二位は米国市場、輸出額は2.73億米ドル、輸出金額は2019年より33.1%減少、比重は約12.7％を占める。トルコは第三位、輸出金額は1.65億米ドル、2019年比は82.1％もの大幅成長を見せた。輸出全体の7.7％を占める。

台湾の主な工作機械製品の輸出量の動向は、マシニングセンタの2018年から2020年12月の累計平均輸出は約1,087台、2020年1-12月平均輸出数は668台だった。旋盤製品の2018年から2020年12月累計平均輸出は約1,502台、2020年1-12月平均輸出は1,269台だった。研削盤は2018年から2020年12月の累計平均輸出は約5,980台、2020年1-12月平均輸出数は4,999台だった。ドリル、ボーリング、フライスタッピング製品の2018 から2020年12月累計平均輸出は約2,245台だった。2020年1-12月平均輸出数は1,806台。鍛圧、プレス成型工作機械製品の2018から2020年12月累計平均輸出は約2,434台，2020年1-12月平均出口数は1,353台だった。

財政部関税総局資料処理所が提供する我が国各関税区の輸入報告資料による台湾工作機械とパーツ工業同業工業会（TMBA）統計では、2020年1-12月台湾工作機械輸入金額は6.78億米ドル、2019年同期より16.4％減少した。そのうち金属切削工作機械輸入金額は5.84億米ドル、2019年同期より15.3％減少した。また金属成型工作機械輸入金額は約9,473万米ドル、22.3％減少した。前一か月と比較すると、2020年12月の工作機械輸入金額は2020年11月より3.3％減少した。そのうち、金属切削工作機械の輸入総額は7.6％減少、金属成型工作機械の輸入総額は23.2%成長した。

種別に分析すると、金属切削工作機械輸入ランキング第一位は放電、レーザー、超音波工作機で輸入金額は2.81億米ドル近く、輸入金総額の比重は41.4%を占め、2019年同期より11.4%成長した。主な輸入国は日本、中国（香港含む）、韓国だった。輸入第二位はマシニングセンタ、輸入金額は9,518万米ドル、輸入総額は14%を占め、2019年比33.9%減少、主な輸入国は日本、ドイツ、イタリアだった。

* **最近のニュース**

**工作機械の景気低迷期突破　今年第３シーズンは回復の見込み**

【2021-01-02 中央社 】

昨年の機械業と工作機械業の景気低迷期はすでに突破した。今年の展望としては、業界は引き続きコロナ禍の進展を見守る必要があるが、中国大陸市場が回復し米国からも引き続き商品の仕入れがあるので、上半期には去年同期より良くなると予測する。工作機械の第3シーズンは回復の見込み、今年の営業目標は昨年より良くなるだろう。

台湾機械産業額の今年の見通しに関して、機械工業同業会理事長の柯拔希氏は次のように語った。「中国大陸市場需要の回復と米国製造政策が台湾機械設備の米国向け輸出を促進した。今年の台湾機械産業総生産額は去年より５％から10％成長するだろう。今年上半期の産業は去年上半期より良くなり、今年は爆発的成長が見られると予測する。」

柯拔希氏はまた「もし機械業が毎月の輸出生産額を23億米ドルから24億米ドル以上に維持できたなら、年間の輸出生産額はなんとか300億米ドルになるだろう。」とも述べた。

米中貿易戦の発展を観察して柯拔希氏はこれは台湾機械業にとって「短期的には良くないが長期的に見ればいい結果がある」と予測した。今年の台湾機械業は検測設備、電子設備と工作機械の成績に期待を持てる。

**台湾ドルの急騰　機械工作機械業は政府に為替の安定化を呼びかける**

【2021-01-02 中央社】

台湾ドル対米ドルの為替は去年比上昇率5.6％に達した。年末には28ドルの大台を試す動きが続き、最後の数日の取引では28.1ドルを突破、ここ23年半で新高値を記録した。去年の台湾ドルレートは28.508元に抑えることができたが、米国は昨年12月中旬依然台湾を為替操作の監視リストに入れている。中央銀行はすでに「台湾優先」を表明している。レートを安定させることは急務だ。

台湾機械同業工業会の理事長柯拔希氏は中央銀行に、台湾ドルの高潮が台湾輸出産業の各業界に影響を及ぼしており、衝撃は機械業だけにとどまらないこと、台湾輸出産業が競争力を失うことがないよう、為替の上昇は確実に輸出メーカーにとって不利益となることを訴えた。

彼はまた、多くの機械業メーカーが30元から30.5元で取引をしており、業者は何も台湾ドルの切り下げを要求しているわけではなく、ただレートの安定化と他の競争国と同等の条件を持てるよう願っているだけだとも指摘した。

　機械工業会は、「レートはやはり機械輸出の競争力において鍵であり、業界の損失が引き続き拡大し、受注能力に影響を及ぼす。台湾レートを競争相手国に合わせて変動させ、台湾の輸出競争力を維持できるよう政府は協力してほしい」と訴えた。

**機械輸出連続４か月黒字　業者は台湾ドルの高潮に注目**

【2021-01-11 中央社】

台湾機械工業同業工業会統計によれば、去年12月の機械輸出額は前年12月より６％増加した。去年一年間の機械輸出額累計は前年より4.2％減少した。台湾ドルで計算すれば8.4％減少したことになる。

去年一年間の機械輸出額トップ３を観察すると、計測設備は14.4％を占め、前年より11.8％成長、電子設備は13.5%で9.2％成長、工作機械は8.3％で29.7％減少した。

去年の機械輸出トップ３市場は、中国大陸が30％、米国が22.3％、日本が6.7％を占める。

機械工業会は次のように指摘している。「去年９月から単月の機械輸出額はプラス成長をしている。すでに４か月プラス成長だ。台湾機械産業は谷底から抜け出して安定したと言っていい。しかしながら、去年12月の機械輸出はプラス成長でも、主に国際貨物のコンテナ不足の影響を受けて、一部業者は予定通り出荷ができず、次々に後送りとなった。

輸入の方は、去年12月の機械輸入額は前年同期より13.6%減少した。去年一年間機械の累計輸入額は前年より0.3%成長、台湾ドルでは4.1％減少した。

台湾工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏は本日次のように語った。「工作機械産業はすでに谷底からはいあがった。今年は中国大陸、米国市場などの需要が高まり、また米中貿易戦によってサプライチェーンの再構築効果も得られた。今年の工作機械産業生産額は15％から20％成長すると予測できる。

許文憲氏は次のように語る。「業界は今年の景気に対してかなり楽観的な見方を持っているようだ。中でもパーツ業者は相変わらず第２シーズンで景気が回復すると考えている。工作機械業者は、第３シーズンの景気が回復態勢に入ればより明確だと考えている。」

工業会統計では、去年12月の台湾工作機械輸出はひと月で9.3％増加、年間では18.2％減少、一年の輸出累計は29.7％減少した。

昨年台湾工作機械輸出国のトップ10は金額順に中国大陸、米国、トルコ、ロシア、ベトナム、タイ、インド、日本、オランダ、ドイツだった。そのうち、中国大陸は35.1%、米国は12.7％、トルコは7.7%を占める。昨年のトルコ市場は82％成長した。

台湾ドルの上昇に対して許文憲氏は、「台湾が為替操作をしているなどと米国に思われたくない。原材料価格が上昇する中で政府には価格の安定化を求めたい。」と述べた。

**機械業、どん底から脱出なるか　レートが鍵**

【2021-01-20 連合報】

コロナ禍、為替率とダブルの衝撃を受けて、2020年工作機械輸出は３割近く衰退した。業界は、今年コロナ禍は依然収まってはいないが、経営はどん底から脱出できると考えている。しかしながら2019年の高値に戻るにはまだ２，３年を要し、それには為替率が重要な鍵を握っている。

台湾機械工業同業工業会理事長の柯拔希氏は「レートは競争相手と直接関係がある。もしライバル国が３％落ちれば、台湾ドルは２％落とす。そうすれば競争力は５％差がつくことになる。」と話す。

外貿協会理事長の黃志芳氏はこう述べた。「機械業はすでに回復し始めている。コロナ禍はいまだ目途が立たないがみんなで努力してきた結果、経済活動は回復してきている。工業の母体ともなる機械業はこの景気をぜひとも掌握したいだろう。台湾機械業は昨年特に大変だった。今年は政府、公協会、業者とともに努力して新たな業務の契機を見つけた。過去に台湾企業はさまざまな挑戦に直面してきたが、台湾はとても粘り強い。たとえば関税が多国より不利だなど主観的、客観的ハンディーはあるが、うまく協力していけばまだ打開策があるはずだ。」

**機械、工作機械を救おう！経済部、スマート製造の国際マーケティング計画起動**

【2021-02-03 経済日報 】

工作機械を救い産業輸出を高めるべく、経済部は「スマート製造国際マーケティング計画」を推進することを発表した。並びにオンライン展覧会を関連業界及び展覧会主催機関が利用できるようにし、機械業と工作機械業のマーケティングに協力した。

経済部はつぎのように述べた、「機械及び工作機械は我が国の輸出に重要な産業だ。世界市場でも重要な地位を占めている。米中貿易摩擦や世界的コロナ禍の影響を受けて、産業サプライチェーンの再構築が急がれる。2020年台湾機械設備輸出額は2019年より4.2％減少した。工作機械はさらに３割近く衰退した。業界の輸出を高めるべく、経済部は貿易局、工業局、中小企業の関連資源を合わせてスマート製造国際マーケティング計画を推し進める。「商業情報の提供」、「資金需要」、「ブランドサポート」、「人材育成」から「業界の連結」、「市場マーケティング」、「貿易振興助成金」、「デジタル貿易のサポート」など８つを主な主軸として各作業を展開実行していく。

**台湾機械産業の強靭な回復力　１月輸出は33.4％アップ**

【2021-02-09経済日報】

台湾機械工業会が本日１月の機械設備輸出額について発表した。１月の機械設備輸出額は去年同期より33.4％（年間では26.5％増加）と大幅増加した。機械工業公会は今年機械設備輸出はもとの予想より10％伸びると予測し15％成長に上方修正した。奮闘次第では300億米ドルを突破できるかもしれない。

機械工業会統計では１月の機械輸出額トップ３は順に検測設備が13.9%を占め、去年同期より69.1％成長した。電子設備は13.3％で去年同期より22.9％成長、工作機械は8.6％で去年同期より23.2％成長した。

また１月の機械輸出国トップ３は順に中国大陸30.4%、米国21.2%、日本6.7%だった。

柯拔希市はこう語った。「機械輸出トップ10の製品は殆どが二桁成長した。検測設備の輸出は同期比69.1%、動力コンポーネント60.4%、工作機械パーツは70.5%もの成長した。」

工作機械輸出もコロナ禍発生後一番にプラス成長した。成長幅は23.2％に達する。国際市場が徐々に回復し、設備需要のエラスティックも安定した成長を見せている。

**工作機械に春　受注の大波**

【2021-02-21 経済日報】

工作機械とパーツ産業の景気が回復している。パーツとコンポーネントの大手メーカーでは受注出荷が殺到している。第１シーズンの売上状況から見て法人は一年間の営業収益は二桁以上の成長があると見込んでいる。

注目に値するのは、ボールねじ、リニアスライドや鋳造品などの原材料価格が高潮しており、台湾ドルも猛威的に上昇していることだ。国内メーカーは相変わらず人材、原料不足とコスト上昇の圧力に面している。パーツメーカーが年初に値上げし始めてから工作機械メーカーも次々に調整し第２シーズンから製品の値上げを予定している。平均値上げ幅は約５から１０％。

業界によれば、中国大陸はインフラ整備に力を入れているようだ。加えて自動車、軌道、５G応用や自動化産業は確実に回復しており機械設備の追加購入意識も高まっており、生産拠点を両岸に持つ台湾メーカーが優先的に恩恵を受けている。

法人は上銀の第１シーズン営業収益は５割増し以上で同期間で二番目に高い売上高になると見ている。

**インドダイヤ業の産業クラスター促進　台湾工作機械業者の参列も期待**

【2021-02-27 中央社】

世界最大、最高のムンバイインドダイヤ取引所総裁メータ氏が中央社記者のインタビューで次のように答えた。「インドはいますでに世界最大のダイヤ研磨とカッティングの中心になっている。インドのダイヤ研磨は世界の92％を占める。ダイヤ産業の生産額も世界の79％を占めている。ダイヤ産業に携わるにはインドとの関わりは欠かせないと言っても過言ではない。」

メータ氏は率直にこう述べた。「2019年は新型コロナはインド宝石業に大きな打撃をもたらした。特に去年３-６月は需要がほぼ消滅停滞した。だが取引所は去年６月から再開され今日に至る。インドのダイヤ製造生産能力は開始時の20％-25％から100％回復し、110％に達している。加えて世界の主な市場である米国や中国のダイヤの需要は大幅に増加しているし、欧州でも少しずつ需要が伸びている。下半期ロックダウンが解除されればさらに良くなるだろう。」

　台湾の話になってメーター氏は次のように語った。「毎年台湾のバイヤーがムンバイのインドダイヤモンド取引所まで購入にやってくる。台湾の精密と加工機械は世界でも名高い。ダイヤモンド取引所はこれら台湾工作機械メーカーがムンバイのダイヤ産業展に参加できるよう協力したい。インドダイヤの加工業が使用している工作機械の需要も考慮に入れて先に注文を、それからインドの組立生産についても考慮した上でインドダイヤ取引所が必要な援助を提供することでインドと台湾のダイヤ産業が強化されればと思う。」

**経済日報社説／電動車産業を優先的に確保　政府の神対応に期待**

【2021-02-28 経済日報】

世界の電動自動車産業に新たな波が起こる。

テスラが台湾で初めて研究開発と生産を開始した。これは台湾の自動車、電子、工作機械産業と大きくかかわってくる。仮にテスラが今後米国に生産地を戻したとしても、台湾の多くの産業はすでにテスラや電動自動車のサプライチェーンのメーカーになっているからだ。

台湾産業が電動自動車普及の先駆者となるには、政府、業者、学術界は三つの点を理解しなければならない。ひとつは、推進のための明確なスケジュールを設定し関連法案を完成させ、業界が中長期計画を策定する際にそれに従うことができるようにすることだ。ふたつめに電動自動車を使用する際の完璧な環境を作ることだ。これまでのように補助金に頼るべきでない。政府は米国の様式を参考に、一定年数までに公用車などを電気自動車に換えるべきだ。みっつめの鍵は産学連携の研究開発を迅速に進め、我が国が電動自動車の主要部品を一定割合で自主生産できるようにし、同時に電動自動車の先端技術を開発する人材を育成することだ。

電動自動車に20年余りの時間と労力を費やしてきた。外界は今後10年で燃油車の黄金期とは交代期を迎えると予測している。台湾はすでに自動車、ITと工作機械産業を有している。電動自動車のOEMにだけ目を留めていてはいけない。背後にある蓄電や自動運転、カーネットワークなどの生態系も考えなければならない。これらについては業者自身の努力のみならず、政策の援助や法規の対応、人材育成など産官学が協力してこそ電動自動車産業が台湾で一つのアイドル産業となる。

**柯拔希氏「機械業黄金期10年の到来だ」**

【2021-03-03 経済日報 】

「台湾機械産業の黄金期１０年が到来した！」と台湾機械工業会理事長柯拔希氏は言う。台湾機械産業の回復力は強力で、今年の機械産業の産業額は1.2兆元にのぼり、輸出額は15％アップすると見られる。

柯拔希氏は台湾機械産業には今後10年成功の道がふたつあるという。まず米中貿易戦によって生産拠点の思想が変わった。東南アジアなど第二生産拠点地の効果が少しづつ発酵し始めている。目下前２シーズンの国内機械設備業のオーダーはほぼフルになり、第３シーズンも引き続き順調だ。

もうひとつは新型コロナの発生でサプライチェーンに対する見方が変わった。短期的サプライチェーンと自主サプライチェーンの勢いも増し、在庫レベルも上がった。

未来の展望について、柯拔希氏は次のように述べた。「目下、機械産業が直面している人材、資材、コンテナの不足と為替問題に関して、政府は引き続き対応策を練っている。今年８月で終了するはずのイノベーション条例に基づくスマート機械投資の低減をさらに５年延長すると同時に控除比重も５％から１５％にしたほうがいい。これはメーカー自身がそう実感している。」

**工業機械産業景気の回復　今年の輸出は３０％増の見通し**

【2021-03-05 経済日報】

台湾工作機械とパーツ工業会は昨日取締役監査役會を開いた。理事長の許文憲氏は、「工作機械産業の景気は目に見えて回復している。いま短期のオーダーが殺到中だ。各メーカー第２シーズンのオーダーはほぼフルで、工業会は今年の工作機械輸出予測額を上方修正した。成長率は当初予想した１５％から３０％に引き上げられるだろう。」と語った。

工業会統計では、台湾工作機械の今年１月の輸出額は2.28億米ドル、月間10.6％、年間23.2％増加した。景気はすでにどん底から這い上がっている。中でも比較的好調なのは１月の中国大陸向け輸出だ。去年同期より126％と大幅の成長を見せた。

輸出が大幅増加した主な原因を分析してみた。今年１月は去年同期より勤務日数が多かったこと、加えて新型コロナの影響が徐々に収まってきたこと、世界の主な国家の投資が増加したことが我が国の工作機械輸出市場を大幅に増加させた要因といえよう。特に大陸市場の成長は最大だった。

その他、輸出で伸びた市場は米国の成長率17％、トルコ20％、ロシア12％、ベトナム73％。タイ40％、マレーシア48％、オーストリア83％などが含まれる。

**機械設備輸出　連続六カ月プラス成長**

【2021-03-11 経済日報】

台湾機械工業会は昨日、機械設備前２カ月の輸出額が去年同期より25.４％の幅増加（増加幅は18.7％）をみせたことを発表した。いま第３シーズンのオーダーも見通しがついており、業界全体の回復力は大変順調だという。

注目するに値するのは、農歴新年で営業日数が減少し、また国際貨物のコンテナ不足の影響があったにもかかわらず、２月の機械設備輸出額は去年同期より16.8％成長したということだ。去年９月以来連続六カ月プラス成長を遂げている。

今年の前二カ月の機械輸出額トップ３は、計測設備が14.5%を占め、去年同期より42.3％成長、電子設備は13.3％で去年同期より22.9%の成長、工作機械は7.9％、12.7％増加した。

前二カ月の輸出国トップ３は、中国大陸が30.0％、米国21.7％日本が6.7％だった。

　柯拔希氏は次のように述べた。「２月の機械設備輸出製品トップ10のうち、コンポーネントは53.9％もの大幅な成長があった。手工具と工作機械パーツはそれぞれ42.5%と41.9％増加した。工作機械は１月23.2％の大幅成長を見せた後、２月は0.6％減少してしまった。昇降設備と輸送設備は20.4％減少した。

**工作機械リモート展覧会　機械産業輸出額は３割増しの見通し**

【2021-03-15 中央社】

台北国際工作機械リモート展覧会が本日より開催された。主な展覧分野は、金属切削工作機械、機械パーツ、工具と付属品、プレス、鍛造と鍛造設備、板材加工設備、管材、ループ材などの加工設備、溶接、表面処理設備、コントローラー、ソフトと設計工程、ロボットと自動化設備などだ。

主宰機関のひとつである台湾機械工業同業会の理事長柯拔希氏は次のように述べた。「台湾機械産業が2017年以来ミリオン産業になり、去年は新型コロナの影響を受けるも末には景気が回復し、今年の生産額は15％成長すると予想される。年間輸出は20％から30％成長し、機械産業の黄金10年期に突入する。」

　コロナ時代のグローバルサプライチェーンの再構築に対応するべく、スマート機械フォーラムは「世界サプライチェーンの再構築」をテーマに群創、台灣微軟、永進機械、台灣創浦、西門子、發那科、三菱電機等の管理者と専門家を招いて市場の動向、キーとなるテクノロジーや開拓市場などを中心に討論を繰り広げた。

**工作機械国家隊、領域を超えた生産を再び**

**「スマート製造SaaSクラウドサービス連盟」を結成**

【2021-03-30 経済日報】

台湾工作機械とパーツ工業会は本日「スマート製造SaaSクラウドサービス連盟」設立会を開催した。工業会理事長の許文憲氏は、初期の商機は30億元と見込んでおり、毎年さらに倍成長を遂げると見ている。

これは去年12月の「半導体設備の現地アライアンス」に次ぎ、工作機械国家隊が再び推進する産業域を超えた形のアライアンスで、工作機械とパーツ工業会が業界の将来に向けた全体的発展のなかで、すでに精密機械産業から高付加価値、多様型産業の領域にシフトしていっていることの現れだ。

許文憲氏はこう述べた。「工作機械産業の観点から言えば、おおよそ80%以上は中小企業なので、デジタル技術に投資したい気持ちはあるものの余力不足なのだ。」彼はデジタル技術は今の運営プロセスを改善することができ、デジタルにシフトする際、企業は新しい運営方式と競争の優位性を生み出すことが出来ると考える。

国内外産業の環境は目まぐるしく変化するため、産業は急速なクラウドサービスの構築技術が求められる。まずはSaaS格式の設定に始まり、クラウドデジタルへのシフトをすること、これは工業会が推進する「スマート製造のSaaSクラウドサービスアライアンス」の始まりでもある。

**台湾の経済指標**

【2021-03-30 台湾行政院主計総処】

台湾行政院主計総処は21年経済成長率を+4.64％と置いた。2015年以後最大の伸びになるとみる。感染抑制と個人消費拡大の両立に加え、ワクチン普及に伴う世界経済の持ち直し、半導体需要の底堅さが支えとなる。製造回帰投資の継続、再生エネルギーの導入加速などで台湾内の投資増も好材料である。

2月の輸出額は同月の過去最高を更新した。主因は、①5Gの加速化、リモートワーク・巣ごもりの需要拡大を背景に半導体・情報通信の好調維持、②原材料価格の上昇を受けて従来型製造業の復調によるものである。他方、2月のCPIは、前年同月比+1.37%と、20年1月以来となる高い上昇率。春節前、春節中はサービス業の料金が上昇したほか、新型コロナの影響で前年同月の数値が低いことも後押し要因だ。